

市長（作野広昭君）

北陸新幹線白山駅の周辺整備に伴う市の総合計画や都市計画マスタープランの計画変更についてであります。白山駅の整備につきましては、総合計画の後期基本計画に白山総合車両基地を活用した新幹線乗り場の整備について、立地可能性調査を行い、在来線新駅での乗り場とあわせたJR白山駅の整備を推進と記載されております。

また、都市計画マスタープランにも、白山総合車両基地での新駅整備については、国、県、近隣市町及び関係機関との協議を進めており、整備の方向性に合わせて周辺の土地利用や都市施設の整備について検討しますと記載されております。

これらの計画は、都市計画マスタープランを平成22年3月に、総合計画の後期基本計画を平成24年3月にそれぞれ策定したものであります。その時点では車両基地の中に新幹線乗り場を建設することとしていたものであります。しかしながら、その後、敦賀延伸が認可され、車両基地へ出入りする新幹線の車両が減少したこと、金沢方面への一方通行のため、費用対効果が低いということが判明したことから、新たに新幹線の本線上に駅を設置することができないか検討を始めたものであります。したがって、議員指摘のとおり、両計画と新幹線新駅構想との乖離が生じております。

私といたしましては、これらの計画と白山駅構想は整合を図るべきであると思っております。しかし、いまだ白山駅構想は認可されておらず、駅の明確な位置も定まっておりませんので、現時点では両計画を修正できる状況には至っておりません。

変更の時期につきましては、白山駅の調査が終了し、この白山駅構想が国やJRにおおむね認められた段階で変更したいと考えております。